

主題「個別の探究と他者との対話を通して、音楽から新たな気付きと感動を得られる生徒」の育成

1 主題設定の理由

本校音楽科では、「音楽について他者と対話し、共感と感動を伴った音楽体験のできる生徒の育成」を目指し、鑑賞領域において ICT を活用し個別に鑑賞する、スライドを共同編集し発表する、鑑賞文を他クラスや他学年へ公開するなど、知覚・感受の共有の充実と言葉による表現力の育成を目指してきた。

成果として、個別に鑑賞することで細かな知覚・感受が可能になり、課題に応じた見方・考え方を豊かに働かせながら鑑賞することができた。また、プレゼンテーションを前提とした鑑賞を設定することで、知覚・感受したことの根拠をもって音楽について語り合い、共感と感動を得ることができた。

課題として、個別に鑑賞して聴き深めたり他者に働きかけたりする中で、音楽に感動を覚えることのできる生徒は多くない。そこで、個別に鑑賞したことを他者に伝え、実際に聴くという流れのプレゼンテーションを積み重ねることで、自分にはない視点から新たな気付きや感動を得ることのできる生徒の育成を目指したい。

以上のことから、今年度は「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための手立てを通して、「個別の探究と他者との対話を通して、音楽から新たな気付きと感動を得られる生徒」の育成を目指して研究を進める。

2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるための具体的な手立て

○生徒同士のプレゼンテーションを前提とした「鑑賞ツアースケジュール」の活用

新たな気付きや感動を得ながら鑑賞するには、鑑賞領域における「味わって聴く過程」を生徒が理解して学習活動に取り組む必要があると考える。しかし、音楽は目に見えず「よくわからないもの」であるがゆえに思考が曖昧になり、生徒は今何について考える場面なのかを把握することが難しい。そこで、「味わって聴く過程」に「視点」「考え方」の例を示し、生徒が思考ツールのように活用することができ「鑑賞ツアースケジュール」を作成した（図1）。

生徒は、鑑賞曲の最初の感想をロイロノートのカードに書き、ツアースケジュール上に貼っておく。これが後々、授業を通して得た「新たな気付きと感動」を自覚するための指標となる。次に、最初の感想から、聴き深めると面白そうなポイントを右側の「視点」「考え方」ごとに検討し、クラス全体で題材の課題を設定する。また、ツアースケジュール上にあるワークシートを使って、押さえるべき内容や、個人で鑑賞する際の聴き方について学習する。その後、ここまでの学習や個人の興味を基に個人で聴き深め、それをグループ内でプレゼンテーションしながら鑑賞する。その際、バスツアーのガイドのように、実際の音を知覚・感受しながら対象の面白い点や豆知識、感動するポイントなどを生徒が紹介できるようにする。この時、生徒が自分で曲を再生しながらプレゼンテーションすることや、教師が全体に曲を再生し、グループごとに生徒がプレゼンテーションすることなどの工夫も考えられる。このように、生徒が主体的に聴き深め他者と協働する学習を積み重ねていくことで、自ら新たな気付きと感動を得られるようになる。と考える。



＜図1 「鑑賞ツアースケジュール」の活用例＞

パイプオルガンの音色や旋律の重なりを味わおう

「フーガ ト短調 (J.S.バッハ)」



一体的な充実に向けた手立て

○生徒同士のプレゼンテーションを前提とした「鑑賞ツアースケジュール」の活用

＜本時の目標＞（２時間中の２時間目）

音色、テクスチャ、形式・構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠および、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

3～4人のグループで分担して鑑賞する。

- ・探究する内容をグループ内で分担する。
- ・他の人が知らなそうな情報や気付かなそうな音を探しながら、個別に鑑賞する。



探究する内容を分担して個別に鑑賞する

- 協** 「鑑賞ツアースケジュール」を全体で確認することで、前時の内容（パイプオルガンの音色、フーガの音の重なり方や発展の仕方など）と、大切な視点（音色、テクスチャ、形式・構成など）や考え方（当時の生活や音楽の使われ方など）をもとに、グループ鑑賞に向けて探究する内容の役割分担ができるようにする。
- 個** 探究する視点と考え方をグループ内で分担することで、各自のタブレットを用いて個別に鑑賞する際に自分の分担に合った見方・考え方を働かせ音楽から新たな気付きを得ることができるようにする。

個別に鑑賞した結果をグループで共有して鑑賞する。

- ・個別に鑑賞して分かったことや紹介したいことを一枚のカードにまとめる。
- ・カードを使って鑑賞した結果を紹介し、曲の該当する箇所をグループで鑑賞する。



資料を作成し、ツアーガイドのように紹介する

- 個** OneDrive の共有機能を使い、鑑賞曲の音源にパスワードを付けて限定公開することで、生徒が個別に鑑賞して自身の分担に合った箇所を繰り返し聴き深めることができる。
- 協** ロイロノートで一枚のカードに探究した結果をまとめ、グループで発表することで、他者との対話を通して新たな気付きが得られるようにする。また、全体でグループ鑑賞のポイントを確認し、ツアーガイドのように紹介後すぐ該当箇所を聴き深める活動をすることで、感動を得られるようにする。

全体で聴き、鑑賞文を通して学習を振り返る。

- ・グループ学習で分かった情報を全体で共有する。
- ・「フーガ ト短調」を通して聴き、個人で鑑賞文を書く。
- ・鑑賞文をロイロノートの提出箱で共有する。



共有した学びを基に、個人で聴き深める

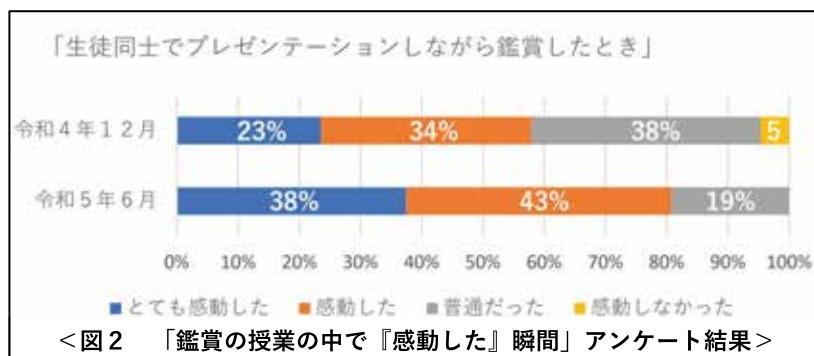
- 個** 全体を通して聴き、ここまでの学習を踏まえて鑑賞文にして提出箱で共有することによって、最初の感想からの自分の成長を実感したり他者の鑑賞文から更に学びを得たりすることができるようにする。



ツアースケジュールを用いて課題や視点、鑑賞方法などを明確にし、ツアーガイドのように紹介しながら鑑賞する活動を通して、前時や個別の鑑賞では得られなかった新たな気付きと感動を得ながら鑑賞することができるようになった。

3 成果と課題

成果として、令和4年12月と令和5年6月に同様のアンケート調査を同一の生徒集団を対象に行い、符号検定を行った結果、生徒同士のプレゼンテーションでの鑑賞において感動を覚える生徒が増加した($P<.001$ 、図2)。アンケート調査の結果、「何に着目すればよいのかが分かりやすい」「何を考えればよいのかが分かりやすい」「最初の感想と最後の鑑賞文を比較できてよい」などの意見が挙げられ、手立ての有効性が確認できた。生徒が「鑑賞ツアースケジュール」を思考ツールとして活用することで、個人での鑑賞や他者との関わりの中で、鑑賞曲を味わうために必要な新たな気付きを得ることができ、教師の解説による鑑賞と同様に感動を得ることができたと考える。また、生徒のプレゼン資料には、教科書以上の情報や教師の視点を超えるような資料が数多くみられている。「鑑賞ツアースケジュール」の活用によって、味わって聴く過程が視覚化され、思考、判断することが容易となり、個人での鑑賞が充実した結果であると考えられる。



課題として、音楽のよさや美しさを味わって聴く際の、思考、判断し、表現する一連の過程における、表現力不足が挙げられる。アンケート調査の結果、「鑑賞ツアースケジュール」を用いた鑑賞のよさについて、「自分が知らないことを教えてもらえる」と答えた生徒は全体の44%に留まっている。つまり、個別に鑑賞した内容が充実しているにも関わらず、相手に聴いてもらいたい音や音楽を、言葉や図形譜、擬音語などを用いて十分表現しきれていないことが予想される。生徒が音楽についての表現力を十分発揮し、聴いて欲しい音や音楽を相手に十分伝えられるようにするためには、更なる手立てが必要であると考えられる。

4 今後の展望

今年度の研究を継続するとともに、生徒の思考、判断し、表現する一連の過程における表現力の育成を目指して研究を進めていきたい。具体的には、日本や世界の生活や社会において、テレビの音楽番組やコンサートの前説など、音楽を言葉で表現したりプレゼンテーションしたりする場合での工夫について調査・分析し、授業に生かせるかどうかについて検討することが考えられる。また、グループ鑑賞において十分表現しきれていない原因が、題材全体における時間配分や内容の広さなどに起因する可能性もあるため、題材のデザインを再検討することも必要である。更に、言葉等での表現力の向上は、歌唱や器楽、創作などの表現領域において創意工夫する際にも生かされることが考えられるため、「鑑賞ツアースケジュール」を表現領域において活用する方法も検討していく。

目に見えない「よくわからないもの」である音楽を言葉で説明し、より感動を伝えることのできる音楽についての表現力の育成を研究していくことは、これまでの研究の延長線上にあり、これから向き合うべき課題であると考えられる。領域や分野、題材を越えて検討を重ね、「個別最適な学び」と「協働的な学び」をより一層充実させることで、音楽から新たな気付きと感動を得られる生徒の育成を目指していく。

<参考文献>

- 群馬県教育委員会 (2019) 『はばたく群馬の指導プランⅡ』
- 永松茂久 (2023) 『感動だけが人を動かす』 きずな出版
- 藤原 光政 (2022) 『3時間で学べる「令和の日本型学校教育」Q&A』 明治図書出版
- マリリー・スプレnger (2022) 『感情と社会性を育む学び (SEL)』 新評論
- 文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領解説 音楽編』 学校図書